

下福田のオビシャ

のぼりを立てて
ご神体の受け渡し

この時期、市内各地で農作物の豊作を祈ってオビシャ行事が行われます。下福田では、地区内の21軒が参加し、今年は1月19日に行われました。以前は、1月20日に、前年の当番の家でご神体の受け渡しを行い、その年の当番の家へ向かう習わしで、それぞれの家ではフナ^{さかな}のつみれなどを肴に用意したそうです。地区住民の勤務などの関係から、1月20日に近い週末に変更され、集会所で神事が行われるなど、簡略化されてきてはいますが、今でも地区の大事な行事として受け継がれています。今年の当番として、ご神体を預かった小川重敏さんは「一年間大事にお守りします」と話していました。



集会所前にはのぼりがはためいて



列を組んで当番の家へ

小泉のオビシャ

ひげなで3杯、置き8杯

「30年ほど前、初めてオビシャに出たとき、杯を置いてしまつて追加で8杯飲んだことを思い出します」。参加者の一人、秋谷順三さんが懐かしそうに語るのは1月20日、共同利用施設で行われた「小泉のオビシャ」。弘化年間(1844年～1848年)には始まっていたと伝えられる同地区のオビシャには、お対座(酒の飲み交わし)の際、独自のルールが設けられています。それは自分のひげをなでてしまうと追加で3杯、飲み干した後に杯を二人同時に置かないと、先に置いてしまった人が追加で8杯飲まなければいけないというもの。参加した地区の皆さんは「置いてもいいぞ」「鼻の下に何か付いているぞ」と冗談の飛び交う中、相撲になぞらえて前頭から順に杯に注がれた濁り酒を飲み干していきました。



お対座の結びになみなみにお酒を注がれる東西の横綱

大栄地区マラソン大会

息を弾ませ寒風を切る

桜田にある日本自動車大学のサーキット場で1月19日、「大栄地区マラソン大会」が開催され、小学生の部からファミリーの部まで、およそ200人が健脚を競いました。この日は冷え込みが一段と厳しく、最高気温でも5度。「寒さに負けまい」と入念に体をほぐした選手たちは、暖かい声援を力にゴールを目指し駆け抜けました。



声援を受けラストスパート

あちらこちらに咲いた まぶしい笑顔

地域のお年寄りとの交流を目的として、恒例となっている「ふれあいまつり」が1月26日、滑河小学校で行われました。同小学校の児童と地域の老人クラブが一緒になって、百人一首・けん玉・羽子板・缶積み・じゃんけん列車などさまざまな遊びを体験。合い間合い間には、滑河の昔話や最近の流行の話に花が咲きました。お昼は待ちに待ったもちつきが。何とこのもち米、5年生が地域の人たちの協力を得て、栽培し収穫したものだそう。それをみんなで協力してついたのでおいしいこと間違いなしです。6年生の塚本康さんは「もちつきは毎年やっているけど、みんなに見られているので緊張して失敗してしまいました」とはにかみながら話してくれました。



どこまで積み上がるかな…



テンポよく振り上げ、振り下ろす。きねの扱いもお手のもの



じゃんけん列車。負けた人を後ろに引き連れ…最後に勝ったのは左のおばあちゃんでした

表参道の様子を イラストに

観光ガイドに掲載するイラストの作成のため、佐倉市在住のタレントで同市のガイドマップでもイラストを描いたことのある車だん吉さんが1月28日、成田山の表参道を訪れました。車さんは沿道にある酒蔵や土産物店でお店の人から説明を受けたり、カメラに収めたりして参道の様子を取材。このガイドは本市を含めた北総地域の自治体・観光協会などで構成する北総観光連盟が作成するもので、4月ごろに発行される予定です。



お店の人の話に熱心に耳を傾ける車さん